

Ⅱ 市町事業

令和2年度 学校・家庭・地域連携推進事業 実施市町一覧(松山市を除く)

市町名		協働活動		地域学校協働活動		えひめ未来塾		放課後 子ども教室		土曜教育活動		家庭教育支援	
		実施	箇所数	実施	箇所数	実施	箇所数	実施	箇所数	実施	箇所数	実施	チーム数
1	四国中央市	○	16	○	1	○	5					○	1
2	新居浜市	○	15			○	28	○	1				
3	西条市	○	35	○	17	○	23	○	7	○			
4	今治市					○	3					○	
5	上島町									○	1	○	
6	東温市	○	7			○	2	○	2				
7	伊予市											○	1
8	砥部町											○	1
9	久万高原町	○	3			○	1					○	1
10	大洲市	○	4			○	6					○	1
11	内子町	○	2	○	4	○	3						
12	伊方町	○	2										
13	西予市			○	6	○	6	○	1	○		○	1
14	宇和島市	○	34	○	30	○	13					○	1
15	鬼北町	○	7			○	3						
16	愛南町					○	5	○	1	○		○	1
合 計		10	125	5	58	12	98	6	13			11	8

各市町の協働活動の数値は、令和3年3月末までの見込み

地域学校協働活動



県立北宇和高等学校の生徒とさつまいも掘り (近永小学校地域学校協働本部【鬼北町】)

①【四国中央市】	上分小学校地域学校協働本部	30
②【新居浜市】	垣生校区地域学校協働本部	31
③【西条市】	飯岡小学校地域学校協働本部	32
④【東温市】	北吉井小学校地域学校協働活動	33
⑤【久万高原町】	面河小学校地域学校協働本部	34
⑥【大洲市】	平野小・中学校地域学校協働本部	35
⑦【内子町】	五十崎地域学校協働本部	36
⑧【伊方町】	三崎中学校地域学校協働本部	37
⑨【宇和島市】	宇和津小学校地域学校協働本部	38
⑩【鬼北町】	近永小学校地域学校協働本部	39

上分小学校地域学校協働本部【四国中央市】

～地域の力を子どもの学びに生かそう～

◆活動の目的・理念

- 様々な人との出会いを通して、児童の健全育成を推進する。
- 地域を知り、地域を愛し、地域に生きる児童の育成に努める。

地域学校協働活動推進員 地域コーディネーター	配置		属性		活動内容						
	1	名	主任児童委員	・学校・地域・公民館の年間行事との調整及び支援活動の計画 ・学校支援ボランティアへの連絡と調整							
教育活動推進員のべ人数	19	人	公民館長、人権擁護委員、民生児童委員壮年会員、婦人会員、PTA役員等								
協力活動の内容	登下校 対応	放課後 ・夜間	ボランティ ア調整	休み時間 対応	日々の校 内清掃	部活動 補助	給食時 対応	授業準 備・補助	学校行事	進路指導 補助	その他
のべ日数 200 日	180 日	日	日	日	日	日	日	18 日	2 日	日	日
ボランティア のべ人数 1,300 人	1,080 人	人	人	人	人	人	人	160 人	60 人	人	人
連携・協力団体・機関	学校運営協議会委員、上分公民館、上分地区社会福祉協議会、上分地区民生児童委員協議会、愛護班連絡協議会、上分婦人会、上分壮年会、川之江南中学校、上分保育園、四国中央教育会、青少年育成連絡協議会、喜寿会、読み聞かせボランティア、PTA役員										

取組の概要

<主な取組内容>

- 子どもに寄り添う学習支援
 - ・読み聞かせ
 - ・茶道クラブ（公民館の和室にて）
 - ・ボランティア市民活動センターとの交流
- 心を豊かにする環境整備
 - ・夏季休業中の親子奉仕作業
 - ・花の苗植え活動
 - ・ちよいボラ
- 地域全体で取り組む見守り活動
 - ・登下校の見守り活動
 - ・交通安全教室
- ふるさとを愛する子どもを育む学習
 - ・上分神社子ども相撲大会
 - ・上分こども神輿



（保護者・婦人会・壮年会と一緒に親子奉仕作業やちよいボラに参加）



（視覚障がい者の方との交流会）

（茶道クラブ）

児童の感想

- ・1回戦で負けてしまったので、来年の相撲大会は優勝したいです。友達や地域の人たちが応援してくれたのでうれしかったです。
- ・アイマスク体験では、友達をガイドするのが難しかったです。相手の気持ちを考えることが大切だと分かりました。

<コミュニティ・スクールとの一体的な取組>（<特色ある取組>）

● 喜寿会（老人会）との交流

毎年6年生が、喜寿会の皆さんと一緒に「しめ縄づくり」をしている。また3年生は、「昔の遊び」を教えていただいている。
地域のお年寄りから長年培ってこられた豊かな生活の知恵を学び、温かい交流の中で、上分のよき伝統が受け継がれている。



（しめ縄づくり）

事業を実施して

【成果】

- 協働活動を通して、地域（ボランティアの方たち）と子どもたちとのつながりができ、地域全体で子どもたちを育てるという意識が高まっている。
- 地域の方たちとの温かい交流を行うことにより、ふるさと上分を愛する心を育むことができた。

【課題】

- 子どもたちが地域貢献できるような、地域にとっても価値のある活動になるようコーディネーターを通じた連携が必要である。
- 今年度は感染対策をとりながらの活動となり、規模を縮小せざるを得なかった。

垣生校区地域学校協働本部【新居浜市】

～多くの地域ボランティアの力を集めて～

◆活動の目的・理念

- 地域の多様な人材や各種団体の活動を学校教育活動に活用する。
- 地域全体で子どもたちを見守り育てる。
- 多くの地域住民が学校教育諸活動に関心を持ち学校支援に関わる。

地域学校協働活動推進員 地域コーディネーター	配置		属性		活動内容						
	1	名	公民館主事		・学校・地域・公民館の年間行事との調整及び支援活動の計画 ・学校支援ボランティアへの連絡と調整 ・広報・啓発活動(公民館報・自治会組織との連携)						
教育活動推進員のべ人数	45		人	公民館・連合自治会・シニアボランティア・よもだ会・老人会・婦人会等							
協力活動の内容	登下校 対応	放課後 ・夜間	ボランティ ア調整	休み時間 対応	日々の校 内清掃	部活動 補助	給食時 対応	授業準備・補助	学校行事	進路指導 補助	その他
のべ日数 255 日	213 日	日	日	日	日	12 日	日	18 日	日	日	12 日
ボランティア のべ人数 1,796 人	1,478 人	人	人	人	人	60 人	人	162 人	人	人	96 人
連携・協力団体・機関	垣生公民館・垣生校区連合自治会・社会福祉協議会垣生支部・垣生校区民生児童委員会・垣生校区連合老人会・垣生校区連合婦人会・よもだ会・垣生シニアボランティア										

取組の概要

<主な取組内容>

- **地域の有志で取り組む見守り活動**
垣生校区では、集団登校を実施していないので、登校の見守り活動が地域の方たちと子どもたちとの交流の場になっている。
- **子どもに寄り添う学習支援**
クラブ活動や農業体験教室において、学習活動の支援を行っている。
- **心を豊かにする活動**
読み聞かせ…学年に適した本等の読み聞かせ、高学年には先輩方の人生経験等のお話をする回もある(1学期は校内放送で)。昔遊び…高齢者の方々との昔遊びを通じた交流を行っている。和楽器教室…和楽器(琴)に初めて触れる体験を行っている。チューリップ植付…里山である「垣生山」に登り、チューリップの球根を植える。垣生山オリエンテーリング…全校児童が縦割り班で「垣生山」に登る。



(見守りのおじさんとお挨拶)



(垣生山でチューリップ植付)

児童の感想

- ・毎朝会う見守りのおじさんの姿が2～3日見えなくて心配で、先生から公民館に聞いてもらったら、病気ではないことが分かって安心しました。
- ・自分たちが植えた苗が育ってお米になり、おにぎりにして食べたら、とても美味しかったです。

<コミュニティ・スクールとの一体的な取組>

- **農業体験教室**
・各学年で、違う作物を栽培しており、活動は授業に組み込んで、年間通じて体験している。
・「作物を育て、大切に食する」という食育の取組が特徴で、地域の方の多大な協力・支援で成り立っている。例えば稲作では、田植え、稲刈り、脱穀等、昔ながらの方法で栽培、収穫している。その後「おにぎり」にして地域の方と食べている。大豆は途中で「枝豆」として食べたり、大豆になると「石臼」を回して「きなこ」にし、団子にまぶして食べたりしている。
・地域の方たちに水田や古い農機具等を提供していただくことで、子どもたちの豊かな学習活動が展開できている。



(石臼で大豆をひき、きなこに)

事業を実施して

【成果】

- 地域住民にとって、子どもたちの顔や声が身近に感じられ、元気をもらったりやりがいを感じたりすることにつながっている。
- 地域住民にとって縁が薄かった学校や公民館への出入が気兼ねなくできるようになり、行動範囲が広がった。

【課題】

- 活動している指導者やボランティアの高齢化
- 時間が自由になる人材の確保
- 時代や環境の変化に対応でき、持続可能な学校と地域の連携方策

飯岡小学校地域学校協働本部【西条市】

～地域社会の力を生かして、子どもたちに豊かな学びを～

◆活動の目的・理念

- 学校・家庭・地域の連携を深め、児童の健全育成を図る。
- 地域行事・伝統文化等の豊かな体験活動を通して自然・人と触れ合い、望ましい勤労観や郷土を愛する心を育てる。

	配置		属性	活動内容							
地域学校協働活動推進員 地域コーディネーター	1 名		市職員	・学校体験活動の予算の管理、支出							
教育活動推進員のべ人数	155 人		飯岡地区青少年健全育成協議会、保護者								
協力活動の内容	登下校 対応	放課後 ・夜間	ボランティ ア調整	休み時間 対応	日々の校 内清掃	部活動 補助	給食時 対応	授業準備・補助	学校行事	進路指導 補助	その他
のべ日数 8 日	日	日	3 日	日	日	日	3 日	日	日	日	2 日
ボランティア のべ人数 155 人	人	人	30 人	人	人	人	75 人	人	人	人	50 人
連携・協力団体・機関	飯岡地区青少年健全育成協議会、飯盛会（農業関係）、飯岡消防団、老人会、飯岡公民館										

取組の概要

<主な取組内容>

● 勤労生産（稲作体験）活動

飯岡地区青少年健全育成協議会が中心となり、保護者等の協力の下、『もみまき』から『とうど（祭り）』までを合言葉に、5年生が取り組んでいる。

- ◇「もみまき（5月12日）」新型コロナウイルス感染予防の観点より、本年度は中止とした。活動再開が可能となる場合も考え、健全育成協議会の方で例年どおり苗の栽培をしていただいた。
- ◇「田植え（6月8日）」◇「稲刈り（10月5日）」◇「脱穀（11月5日）」
- ◇「餅つき大会（12月11日予定→中止）」例年全校で実施している。本年度は健全育成協議会の御厚意で、収穫したもち米を業者にて餅に加工、袋詰めしたものをいただいた。5年生が各クラスを回り、全校児童に配付した。
- ◇「交流赤飯給食（1月15日予定→中止）」お世話になった健全育成協議会の方々を招待し、収穫したもち米で作った赤飯と一緒に食しながら交流を図る。
- ◇「とうど祭り（1月17日）」地域行事として、多くの児童・地域の方々が学校田を訪れる。毎年3～6年生の書き初めをとうどに巡らし、6年生児童が代表して点火を行っている。例年ぜんざい等を振る舞っているが、本年度は中止とした。



（田植えの様子）



（稲刈りの様子）

児童の感想

〈餅をいただいた際の5年生〉

- ・お米ができるまでには、たくさんの時間や手間がかかると知りました。今日お餅をいただけたのは、これまで御指導やお手伝いをしてくださった健全育成の方、保護者の方のおかげだと思います。

〈とうど祭りの際の6年生〉

- ・今年はコロナ禍の中、多くの行事や活動が中止・縮小されました。楽しみにしていた餅つきもできませんでしたが、この「とうど」を燃やすことで、新型コロナウイルスも吹き飛ばし、皆さんが健康に過ごすことができればよいと思います。
- ・飯岡地区の皆さんと一緒に、今年が良い年となるように、こんな時期だからこそ、しっかりと祈りたいと思います。

青少年健全育成協議会の方の感想

地域の児童生徒の健全育成を願い、この米作りをはじめ、チューリップ栽培、空き缶拾い、挨拶標語の募集、イルミネーション設置、クリスマスコンサートなど、様々な活動を児童、保護者や先生方、地域の皆さんとともに実施しているが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、餅つき大会などの多くの行事・活動の中止、縮小・変更を余儀なくされた。しかしながら、その都度、活動の趣旨や児童・保護者・地域の願い等を改めて見つめ直し、社会の動向に鑑みながら学校・先生方と相談を深め、できる限りの活動を継続してきた。活動の在り方や実施の方法などを再検討できたという点においては、決してマイナスばかりではなかったように感じている。今後も地域の力を最大限に生かして、家庭の在り方を問い直しながら、郷土を愛する健やかな子どもたちが育つように尽力していきたい。

事業を実施して

【成果】

- 本活動を通して、子どもたちの「食べ物に対する感謝の気持ち」や「自分たちを支えてくださっている方々への感謝の気持ち」、「地域の一員としての自覚」、「郷土を大切に思う心」などが育まれた。
- 学校・家庭・地域が一体となって子どもを育てるという意識がさらに高まった。

【課題】

- 社会の動向や諸団体・協力員の負担等も考慮した上での、より効果的な活動の持ち方や連携の在り方を検討する必要がある。

北吉井小学校地域学校協働活動【東温市】

～子どもの成長・安全・安心をど真ん中に～

◆活動の目的・理念

- 学校・家庭・地域が連携して、教育活動の質の向上を目指す。
- 子どもをど真ん中に置き、子どもの命と安全を守る取組を進める。
- 教職員の業務負担を解消し、学校の業務改善を促進することで、教師が子どもと向き合う時間を確保する。

地域学校協働活動推進員 地域コーディネーター	配置		属性		活動内容						
	1	名	区役員(現)		・協議内容を地域学校協働活動につなぐための計画作成 ・学校支援ボランティアへの連絡と調整						
教育活動推進員のべ人数	人										
協力活動の内容	登下校 対応	放課後 ・夜間	ボランティ ア調整	休み時間 対応	日々の校 内清掃	部活動 補助	給食時 対応	授業準 備・補助	学校行事	進路指導 補助	その他
のべ日数 197 日	186 日	日	日	日	日	日	日	10 日	日	日	1 日
ボランティア のべ人数 897 人	743 人	人	人	人	人	人	人	104 人	人	人	50 人
連携・協力団体・機関	学校運営協議会委員、学校安全協議会委員、東温市社会福祉協議会、東温市立図書館、北吉井幼稚園、双葉保育所、みなら特別支援学校、民生児童委員、見守り隊員、子ども館、郵便局、公共施設、高齢者福祉施設、福祉交流館、水天宮、地区商店、地域青年団、地区役員・有志等										

取組の概要

＜主な取組内容＞

- 地域人材を活用した教育活動
 - ・保・幼・小の交流学習 ・JAの協力によるサツマイモ植え付け、収穫
 - ・高齢者、福祉施設訪問、交流 ・社会福祉体験活動 ・国際交流会
 - ・読み聞かせ ・老人会との夏の遊び、冬の遊び交流会
 - ・生活科、社会科、総合的な学習の時間における見学、体験学習
- 心を豊かにする環境整備
 - ・地域有志による奉仕作業 ・親子奉仕作業
- 地域全体で取り組む見守り活動
 - ・登下校時の見守り活動 ・タスキや腕章の配布
- 学校行事等への参画
 - ・交通安全教室 ・クラブ活動 ・集会での交流活動 ・避難訓練
 - ・PTA講演会



(熟議の様子)



(読み聞かせ活動)



(国際交流会)

6年生のキャリア教育における児童の感想

～オリンピック出場経験5回の武田大作選手を講師にお招きして～

- ・武田選手は、オリンピックに出たいという夢を持ち、それをかなえたのだすごいですと思いました。ぼくは、バスケットをしているけど、目標を持って練習をがんばりたいと思いました。
- ・ステージに上がって前屈のストレッチの仕方を教えてもらいました。初めは地面に手が届かなかったけれど、ストレッチをすると簡単に地面に手が届き、うれしかったです。



(オリンピック選手を招いて)

＜コミュニティ・スクールとの一体的な取組＞

● 地域の有志による奉仕活動

今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、祭り等の地域行事が次々と中止となる中、学校のために何かできることはないかと、総勢50名ほどの各地区の有志が集まり、校庭の草取りや溝掃除等の活動をしてくださった。おかげで子どもたちは、整った環境の中で、2学期を迎えることができた。子どもたちのために、参集して汗を流してくださるこのフットワークの軽さは、この地域の強みである。



(地域有志による奉仕活動)

事業を実施して

【成果】

- 熟議を通して、子どもたちの登下校の見守り活動の充実に向け、協力体制を広げることができた。
- 地域に根ざした学校として、地元の有志により環境整備に協力していただくことができた。
- コロナ禍で制限された中ではあったが、ゲストティーチャーの招聘や体験活動の実施により、幅広く豊かな学習活動を推進することができた。

【課題】

- 本校のコミュニティ・スクールの取組は、まだ始まったばかりである。学校の目標や課題を地域と共有して、熟議を重ねることで、よりよい教育活動の実現につなげていきたい。
- 学校運営協議会での協議内容を地域学校協働活動につなげていく地域コーディネーターの役割は大きい。今後の活動を持続させていくためには、地域コーディネーターがより有効に機能するような仕組みづくりが必要である。

面河小学校地域学校協働本部【久万高原町】

～地域とともに、ふるさと面河を愛する子どもを育てる～

◆活動の目的・理念

- 学校と地域の強い結び付きを生かし、地域ぐるみで子どもを守り育てる。
- 学校をはじめ、子どもを取り巻く全ての大人が「地域の子どもは地域で育てる」意識を高め、地域とともに歩む学校づくりに取り組む。

地域学校協働活動推進員 地域コーディネーター	配置		属性		活動内容						
	4	名	主にPTA役員		・学校・地域及びボランティアとの連絡と調整を行う。 ・環境整備・学校支援活動等への参加を呼び掛ける。						
教育活動推進員のべ人数	0		人								
協力活動の内容	登下校 対応	放課後 ・夜間	ボランティ ア調整	休み時間 対応	日々の校 内清掃	部活動 補助	給食時 対応	授業準 備・補助	学校行事	進路指導 補助	その他
のべ日数 219 日	186 日	日	日	日	日	日	日	日	13 日	日	20 日
ボランティア のべ人数 879 人	320 人	人	人	人	人	人	人	人	426 人	人	133 人
連携・協力団体・機関	久万高原町役場面河支所 久万高原警察署・交通安全協会 久万高原消防本部・消防署 女性防火クラブ面河支部 面河地区地域運営協議会 面河地区自治会 面河地区公民館 社会福祉協議会面河支部 文化協会面河支部 面河万歳保存会 老人クラブ連合会面河支部 ボランティア連絡協議会おもご支部 面河小おやじ倶楽部 など										

取組の概要

<主な取組内容>

● 子どもの学校生活を支える環境整備

学校行事の開催前を中心に、保護者、地域の方の協力を得て、学校とその周辺の環境整備を行っている。

- ・プール清掃(5月)、校内の除草・グランド整備・「面河大運動会」に向けての準備(8、9月)
- ・おもご高齢者支援ハウスから学校までのイルミネーション取付(12月)

● 子どもの心を豊かにする学習支援

地域の人材を生かし、心豊かでたくましい子どもを育てるため、多様な学習経験の場を設けている。

- ・読み聞かせ(毎月、ボランティアによる読み聞かせ)、親子読書講座(6月)
- ・稲刈り・粃摺り体験(1、2年生と幼稚園児が体験)(11月)
- ・高齢者支援ハウスとの交流(本年度は対面形式では実施できないため、社会福祉協議会の指導・支援を得て、ビデオメッセージを作成)(12月)

● 地域とともに盛り上げる学校行事

学校行事に地域の方を招き、子どもの様子を見ていただいたり、直接行事に参加していただいたりしている。

- ・参観日(2学期から地域の方を招いて開催)、面河地区人権を考える集い(11月)
- ・交通安全教室(地域の高齢者を招いて実施)(6月)
- ・面河大運動会(地域とともに企画・運営を行う)(9月)



(面河大運動会準備)



(ビデオメッセージ作成)



(面河大運動会)

<特色ある取組>

● ふるさと面河溪魅力発見学習(9月13日(日)実施)

新型コロナウイルス感染拡大の影響から学校行事が中止される中、面河地区地域運営協議会が企画・運営して、おもご幼稚園・面河小学校関係者限定で実施された本年度初めての試みである。この学習会では、本校卒業生である高校生ガイドから「ふるさと面河」のよさの説明を聞いたり、「シン肉カレー」を味わったりするなど、面河溪を一日かけて満喫することができた。

今年は、地域へ出向いた活動ができなかったが、この活動を通して、多くの地域の方々と交流ができ、幼稚園・学校と地域をつなぐ貴重な行事となった。



(高校生ガイドによる説明)

事業を実施して

【成果】

- 地域の方が大変協力的であり、新型コロナウイルス感染症の制約がある中で、子どもたちは価値ある体験ができた。
- 地域の特色を生かした事業を行うことにより、子どもたちのふるさとへの理解が深まり、自分たちが育った地域への誇りが持てるようになってきた。

【課題】

- 児童数が減少していることに伴い、PTA会員数、教職員数が減少している。また、地域も高齢化が進行しつつあり、互いに負担が少ない実りある活動を模索し、今後も継続が可能な内容を検討していく必要がある。

平野小・中学校地域学校協働本部【大洲市】

～ふるさと平野を愛する子どもたちを、地域で育てよう～

◆活動の目的・理念

- 「ふるさと学習」を軸とし、系統性を重視した小中一貫教育を推進していく。
- 義務教育9年間を連続した期間と捉え、発達段階に応じた一貫性のある指導を行う。
- 学校・家庭・地域が今まで以上に連携・協働し、地域住民等の幅広い参画により、子どもたちの成長を支える。

	配置		属性		活動内容						
地域学校協働活動推進員 地域コーディネーター	1	名	元PTA会長		・学校・地域・公民館の年間行事との調整及び支援活動の計画 ・学校支援ボランティアへの連絡と調整 ・広報・啓発活動（ふるさと学習通信「いころの里通信」発行）						
教育活動推進員のべ人数	81	人	公民館長、自治会長、平地上分館、社会福祉協議会、民生児童委員、主任児童委員、平野交通安全協議会、児童生徒を守り育てる協議会、鶴寿会、煙友会等								
協力活動の内容	登下校 対応	放課後 ・夜間	ボランティ ア調整	休み時間 対応	日々の校 内清掃	部活動 補助	給食時 対応	授業準 備・補助	学校行事	進路指導 補助	その他
のべ日数 61 日	17 日	日	日	日	日	14 日	日	2 日	11 日	日	17 日
ボランティア のべ人数 256 人	150 人	人	人	人	人	28 人	人	2 人	25 人	人	51 人
連携・協力団体・機関	平野公民館、平野自治会、平地上分館、社会福祉協議会、民生児童委員、主任児童委員、平野交通安全協議会、児童生徒を守り育てる協議会、鶴寿会、煙友会、JA平野支所、平野駐在所、平野郵便局、JR平野駅、谷本建設工業等										

取組の概要

＜主な取組内容＞

- ふるさとを愛する子どもを育む郷土学習
 - ・発達段階に応じた「ふるさと学習」（郷土の歴史や自然・文化・産業）
（中学生・・・徳馬田の米作り、川的环境調べ）
（小学生・・・平地上分館での稲刈り・餅つき、炭焼き体験、地元企業訪問等）
 - ・小中学校の教員による乗り入れ指導（T・T）
 - ・異年齢集団での学びを深めるための、園児・児童・生徒が合同で行う活動（花いっぱい運動）
- 心を豊かにする環境整備
 - ・花いっぱい運動（春・秋）・人権なかよしの花運動・小さな親切運動
 - コスモスの花コンクール参加・アルミ缶回収
- 地域全体で取り組む見守り活動
 - ・交通安全教室・PTA登校指導
- 特別活動
 - ・シトラスリボンプロジェクトへの賛同



（徳馬田の米作り）



（炭焼き体験）



（もちつき）

児童の感想（煙友会との交流及び炭焼き体験）

・炭焼きという伝統文化を深く知ることができました。平野の山をボランティアで手入れされていて感心しました。インタビューで昔の話が聞けて楽しかった。

＜特色ある取組＞

● 中学生によるシトラスリボンプロジェクトの賛同

愛媛から始まった、新型コロナウイルス感染症に対する偏見や差別をなくそうとする「シトラスリボンプロジェクト」に賛同し、手作りのリボンを製作し、ともに考えていただく活動として様々な場所へ無償提供している。コロナを正しく学び、地域の方や関係者へのエールを送る中で、人の役に立っている喜びを感じ、またリボンを途切れることなく届けられるよう製作する責任感、さらにお知らせするためのアイデアを出すなど積極性も出てきている。SNSや新聞等で紹介されることも子どもたちの励みになっている。



（シトラスリボン製作）

事業を実施して

【成果】

- コロナ禍で中止となったふるさと学習もあるが、地域の協力を得て各学年実施することができた。今まで地域の関わりで、即対応できた成果である。
- 「小さな親切運動」では実行章、「コスモスの花コンクール」ではグリーンコスモス大賞を受賞した。

【課題】

- 3年連続で取り組むはずの「ほたるプロジェクト」が今年度はできなかった。
- 今後の状況により、取組方を再考する必要がある。

五十崎地域学校協働本部【内子町】

～地域ぐるみで五十崎の子どもを育てよう～

◆活動の目的・理念

- 学校・家庭・地域が連携し、「地域とともにある学校」づくりを推進する。
- ふるさと学習を中心として、郷土愛を深める。
- 地域人材の活用を図り、子どもたちの夢を応援する。

地域学校協働活動推進員 地域コーディネーター	配置		属性		活動内容						
	3	名	地域住民		・学校・地域・公民館の年間行事との調整及び支援活動の計画 ・学校支援ボランティアへの連絡と調整 ・広報・啓発活動(学校だより、公民館報等)						
教育活動推進員のべ人数	45		人	農家の方、五十崎自治センター職員、自治会、老人会、婦人部等							
協力活動の内容	登下校 対応	放課後 ・夜間	ボランティ ア調整	休み時間 対応	日々の校 内清掃	部活動 補助	給食時 対応	授業準備・補助	学校行事	進路指導 補助	その他
のべ日数 92 日	40 日	日	22 日	日	日	8 日	日	20 日	日	日	2 日
ボランティア のべ人数 155 人	115 人	人	3 人	人	人	1 人	人	27 人	人	人	9 人
連携・協力団体・機関	自治センター、自治会、婦人部、駐在所連絡協議会、NPO法人うちみづネット										

取組の概要

<主な取組内容>

● ふるさとを愛する子どもを育むふるさと学習

- ・地域の文化や産業の継承、地域に根差した教材を利用した体験学習を通して、ふるさとを愛する心を持った児童生徒の育成に取り組んでいる。
- 〈中学校〉
- ・ふるさと学習(「五十崎を知ろう」地域事業所訪問)
- ・キャリア教育(地域産業事業者による講演会)
- 〈小学校〉
- ・ゲストティーチャーを招き、地域の自然や文化について学ぶ活動(小田川流域の動植物観察、水生生物調査、内子座、木蝨資料館など文化施設見学)
- ・伝統文化の継承(凧文字・凧作り…作品を学習発表会で発表)



(小田川流域の野鳥観察)



(凧文字を使って凧作り)

参加者の感想

- ・学習発表会を見て、五十崎ならではの取組がされていてよかった。
- ・6年生の凧をテーマにした活動は、凧文字にも挑戦し、貴重な経験ができています。

<コミュニティ・スクールとの一体的な取組>

● 「いかざき人の輪集会」の開催

各校で実施していた人権集会を、学校運営協議会の設立を機に、3校合同での実施とした。保護者や地域住民への参加を呼びかけ、地域全体の人権意識の向上を図ることを目的としている。

しかし、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、会場には発表者のみが集まり、発表の様子を動画撮影するように変更した。各校や地域へは、DVDを配布したり貸出したりし、啓発することとした。



(「いかざき人の輪集会」の様子)

事業を実施して

【成果】

- 子どもにとって充実した学びや体験活動となった。
- 地域をより深く学ぶことができ、地域の方と交流することで地域への親しみや愛情を感じることができた。
- 目的に応じた地域教材や地域人材を活用することで、児童の学習意欲を高めることができた。

【課題】

- 支援内容や方針等について関係者で十分合意するとともに、今後も活動を通じて地域のつながりをさらに強化すること。
- 多くの地域の方々に活動を知ってもらい、新たなボランティア人材の確保につなげること。

三崎中学校地域学校協働本部【伊方町】

～地域ぐるみで三崎の子どもを育てよう～

◆活動の目的・理念

- 学校・家庭・地域が手を取り合って、地域の宝である子どもたちを育てていく。
- 地域人材の活用を通して学校を支援するとともに地域の活性化を図る。

		配置		属性		活動内容						
地域学校協働活動推進員 地域コーディネーター		1 名		元教員		・学校支援ボランティアの派遣(人材確保及び連絡調整) ・広報・啓発活動 ・学校支援ボランティアの募集						
教育活動推進員のべ人数		人										
協力活動の内容		登下校 対応	放課後 ・夜間	ボランティ ア調整	休み時間 対応	日々の校 内清掃	部活動 補助	給食時 対応	授業準備・補助	学校行事	進路指導 補助	その他
のべ日数	132 日	20 日	日	日	日	日	日	日	6 日	日	日	106 日
ボランティア のべ人数	338 人	80 人	人	人	人	人	人	人	20 人	人	人	238 人
連携・協力団体・機関		三崎支所、地元消防団、三崎公民館、伊方町社会福祉協議会、伊方町老人クラブ連合会、町見郷土館										

取組の概要

<主な取組内容>

- 学習支援への取組
 - ・総合的な学習の時間の体験活動支援を実施
 - ・郷土学習への支援を実施
- 登下校の安全確保
 - ・子どもたちの登校時間に合わせて通学路に立ち、安全確保と声かけ運動を実施
- 校内環境整備への協力
 - ・樹木の消毒・剪定、運動場の草引きなどの実施



(高齢者疑似体験)

生徒の感想

- ・高齢者のことを身をもって感じる事ができました。腕や膝が曲がらない感覚を体感し、階段の移動の大変さがよくわかりました。これからは、家族や地域の方とさらにコミュニケーションを図っていきたいです。
- ・地域の方々に協力していただき、学校の環境を整えていただくおかげで、気持ちよく学校生活が送れています。



(環境整備)



(いも畑整備)

<特色ある取組>

- 合同防災訓練

地震、津波を想定した保育所・小学校・中学校・高等学校合同の避難訓練に、地元消防団、三崎支所防災担当者、消防署第一分署、地域の方に協力していただき、連携のとれた訓練が実施できた。中学生は保育所の園児の手を引き、先生や消防団員等の適切な誘導支援の中、高台の三崎高等学校まで避難する訓練を行った。訓練の後には、それぞれの立場から感想や改善点等を出し合い、連携・協力の大切さを再確認した。



(合同防災訓練)

事業を実施して

【成果】

- 地域の方々の力が、学校支援ボランティア活動を通して、学校教育活動の充実に役立っている。
- 学校を支援する活動を通して、ボランティアも学校や子どもたちとのつながりに喜びを感じ、楽しく活動している。

【課題】

- 学校と地域の連携・協働体制づくりを見直し、連携の強化を図る。
- 地域と学校で協働して行う活動の充実に努める。
- 地域コーディネーターの後継者の育成を図る。

宇和津小学校地域学校協働本部【宇和島市】

～地域の力を子どもの学びに生かそう～

◆活動の目的・理念

- 学校と地域ボランティアの橋渡しを行い、教職員の負担軽減を図るとともに、地域人材を活用した学習支援を行う。
- 学校・家庭・地域が一体となって、学校を地域コミュニティの核と位置付け、地域ぐるみで子どもたちを育てる。

地域学校協働活動推進員 地域コーディネーター	配置		属性		活動内容							
	1	名	ボランティア経験者		・学校支援ボランティアに関する学校とボランティアとの連絡調整 ・ボランティア活動に係る報告書の作成及び行政担当者との連絡調整 ・広報・啓発活動及び新規ボランティアの発掘							
教育活動推進員のべ人数	人											
協力活動の内容	登下校 対応	放課後 ・夜間	ボランティ ア調整	休み時間 対応	日々の校 内清掃	部活動 補助	給食時 対応	授業準備・補助	学校行事	進路指導 補助	その他	
のべ日数 250 日	190 日	日	20 日	日	日	日	日	15 日	10 日	日	15 日	
ボランティア のべ人数 1,315 人	1,000 人	人	180 人	人	人	人	人	20 人	100 人	人	15 人	
連携・協力団体・機関	公民館、幼稚園、小学校PTA、老人クラブ、自治会等											

取組の概要

<主な取組内容>

● 学校と地域をつなげる

教員から外部講師を探す依頼を受け、地域から適任者を探し、相談や依頼を行い、外部講師による授業を実施した。

時には公民館等で相談し、適任者を探して、依頼することがある。

また、ボランティアを募集し、草刈りや百葉箱の修理等を地域の力を借りて行っている。

● 学校の情報を伝える

地域だよりを作成し、学校運営協議会のこと、ボランティアの募集、協働活動の紹介を行っている。地域だよりに困りごとを載せることにより、地域住民から、手伝いを名乗り出てくれることもあった。



(ボランティア(百葉箱の修理))



(ボランティア(草刈り))



(外部講師(農地見学))

<コミュニティ・スクールとの一体的な取組>(<特色ある取組>)

● 地域の力で解決へ

校庭に大きな木があり、毛虫がついて困っていたため、伐採か温存かを学校運営協議会で協議した。様々な意見が出て、考慮した結果、温存することになった。地域コーディネーターが毛虫に困っていることを地域だよりに掲載したところ、地域の方が消毒してくれると名乗り出てくださいました。そして、消毒をしたことにより、毛虫の発生を抑えることができた。



(ボランティア(消毒作業))

事業を実施して

【成果】

- 支援ボランティアが、学校現場に入ることにより、児童や教職員と地域のつながりが強化された。
- 教員が求める外部講師を探すことにより、地域のことをより深く学ぶ機会ができた。

【課題】

- 学校に常駐していないため、連絡調整の仕事など、個人の携帯番号やメールアドレスを利用することが多い。今後は地域コーディネーターが交代する可能性もあり、継続した活動を行っていくために、有効な対策をとっていく必要がある。

近永小学校地域学校協働本部【鬼北町】

～地域の力を活用した学校づくり～

◆活動の目的・理念

- 学校・家庭・地域が協働し、児童の健やかな育成を目指す。
- 地域の文化、人、自然に触れ合い、近永小学校や地域に誇りを持つ児童の育成に努める。

地域学校協働活動推進員 地域コーディネーター	配置		属性		活動内容							
	1	名	町職員		・学校・地域の支援活動の計画 ・学校支援ボランティアへの連絡と調整 ・コーディネーター通信の発行							
教育活動推進員のべ人数	人											
協力活動の内容	登下校 対応	放課後 ・夜間	ボランティ ア調整	休み時間 対応	日々の校 内清掃	部活動 補助	給食時 対応	授業準備・補助	学校行事	進路指導 補助	その他	
のべ日数 223 日	195 日	日	日	日	日	日	日	28 日	日	日	日	
ボランティア のべ人数 2,355 人	1,936 人	人	人	人	人	人	人	419 人	人	人	人	
連携・協力団体・機関	近永公民館、県立北宇和高等学校、近永老人クラブ、鬼北消防署、鬼北交番、人権擁護委員等											

取組の概要

<主な取組内容>

- 子どもに寄り添う学習支援
 - ・県立北宇和高等学校との連携学習
 - ・読み聞かせ
 - ・戦争体験講話
 - ・昔の遊び体験
- 地域の施設や団体と連携した教育活動
 - ・まちたんけん
 - ・人権の花運動
- 地域全体で取り組む見守り活動
 - ・登下校時の見守り活動



(戦争体験講話)



(苔玉作り)

児童の感想【戦争体験講話での6年生の感想】

- ・今は好きな物を好きなだけ食べられるのに、戦争の頃は、食べ物がサツマイモだけと聞いてびっくりした。
- ・原爆で被害を受けた人数の多さに言葉を失った。戦争の恐ろしさを知り、戦争は絶対にしてはいけないと思った。

<特色ある取組>

- 県立北宇和高等学校との連携学習

県立北宇和高等学校の生産食品科の生徒との交流を図りながら、さつまいも掘り(1年生)、野菜収穫(2年生)、和菓子作り(3年生)、カルミン作り(5年生)、パン作り(6年生)等を行っている。今年度はコロナ禍で感染予防対策をしながらの学習だったが、自然と触れ合ったり、物を作ったりする体験ができた。毎年収穫祭をしているが、今年度は高等学校からカレーを運んでもらい、1・2年生で試食させてもらった。



(さつまいも掘り)

事業を実施して

【成果】

- 今年度はコロナ禍で思うように活動ができなかったが、地域の方々の協力のおかげで、感染予防対策をしながら体験活動を行うことができて良かった。
- 地域の方のおかげで、新しく戦争体験のある講師の方を紹介してもらい、地域人材の発掘ができ、今年度の学習を行うことができた。

【課題】

- 地域をよく知り、児童のために協力していただける地域人材(ボランティア)の発掘が必要である。



えひめ未来塾



愛媛県職業能力開発協会による木工教室 (うわじま土曜塾【宇和島市】)

①【四国中央市】新宮小中学校放課後わくわく教室	41
②【西条市】氷見地域未来塾	42
③【内子町】うちこ未来塾	43
④【西予市】野村学び舎	44
⑤【宇和島市】うわじま土曜塾	45

新宮小中学校放課後わくわく教室【四国中央市】

～山間部における子どもの学習支援～

◆活動の目的・理念

- 児童の学習習慣の定着と学力向上
- 児童一人一人の習熟度に応じた丁寧な学習指導の実施
- 多様な学習機会の提供による心豊かな健全育成

活動場所	新宮小中学校	対象児童・生徒	小学1年生～6年生	対象学校区名	新宮小中学校
開催日数・曜日・時間等	平日(授業日)	130 日	毎週月～金曜日	15 : 00 ～ 18 : 00	
児童・生徒の平均参加人数	29 人/日	学習支援員	2 人/日	教員OB、地域住民ボランティア	
協働活動サポーターのべ人数	25 人	ALT(外国語指導助手)		ボランティアのべ人数	20 人
活動内容	宿題や復習の学習支援、学習習慣の育成、英会話や体力づくりなど学習機会の提供		参加者募集	小学校を通じて案内文書を配布し、希望者を登録	

取組の概要

<主な取組内容>

● 宿題にじっくり取り組もう

学校から提出された宿題を中心に学習に取り組んでいる。宿題で分からないところがあれば、教員OBの学習支援員が、児童一人一人の習熟度に応じた学習指導を丁寧に行っている。また、わくわく教室で準備したプリントなどにも取り組むことができ、学習支援員と相談しながら苦手なところを重点的に教えてもらうなど、個性や能力に応じた指導が可能となっている。

● 英会話や体力づくりなど、多様な学習機会を提供

学校の指導方針で小学1年生から英語に親しむ活動が行われていることから、ALTと連携し、高学年・中学年・低学年に分かれた英会話教室を週1回開催している。
また、講師の特技(専門性)を活かしたスポーツ教室も週2回開催して、陸上競技やバドミントンなど楽しく体を動かしながら体力と運動技術の向上を図っている。

● 学校や家庭との連携

毎月1回、学校と学習支援員が一緒に定例会を開催し、児童一人一人の学習の進捗度や特性を確認し、より良い学習指導・支援方法を毎回検討し、実施している。家庭には、毎月、児童の参加予定日を聞き、家庭でも学習機会を設けるようにしている。



(体力づくりの様子)

児童の感想(学習意欲の向上)

- ・宿題が終わった後に色々なプリントを用意してくれているので、とても勉強になった。
- ・英会話教室では、楽しいゲームを考えてくれるので、英語が一番楽しいです。

<特色ある取組>

● 学校と連携した教員OBによるきめ細やかな学習指導

教員OBが学習支援員となり、学校との連携を密に行うことで、児童一人一人に合ったきめ細やかな学習指導を実施することが可能となっている。
例えば、学校と学習支援員が話し合い、課題を確認しながら学習の積み重ね・習慣化による成就感を高めようと宿題の量を調整することもある。
また、学習のみに限らず、さまざまな場面における児童の特性を十分に共有し、長所を伸ばせるよう、自己有用感につながる役割を与えるよう指導をしている。



(学習指導の様子)

事業を実施して

【成果】

- 児童の学習に対する意欲向上が見られるようになり、学習の定着が図られるようになった。
- スポーツ指導では、異学年同士の交流もあり、縦のつながりを通じたコミュニケーション力や思いやりの心が育まれている。

【課題】

- 保護者などに家庭学習の重要性を理解してもらい家庭においても学習の習慣化を図りたい。
- 市の中心部から離れた山間部の学校で実施されているため、学習支援員の確保が難しい。

氷見地域未来塾【西条市】

～地域ぐるみで子どもの学びを支えよう～

◆活動の目的・理念

- 学習習慣の定着や向上を図る。
- eライブラリーを使用し、一人学習ができるようにする。
- 学習意欲や自己肯定感の向上を目指す。

活動場所	氷見小学校	対象児童・生徒	小学5年生	対象学校区名	氷見小学校
開催日数・曜日・時間等	平日(授業日)	22 日	毎週火曜日	15 : 30 ~ 16 : 40	
児童・生徒の平均参加人数	16 人/日	学習支援員	5 人/日	教員OB	
協働活動サポーターのべ人数	人		ボランティアのべ人数	人	
活動内容	宿題や予習・復習の学習支援、eライブラリーを使用		参加者募集	小学校が希望者を募る。	

取組の概要

<主な取組内容>

- 積極的に学習に取り組む習慣づくり
 - ・落ち着いた態度で学習に取り組むことを意識して指導する。
 - 宿題だけでなく、自主学習やプリント等を重視して、時間一杯、学習に取り組むように支援する。
- eライブラリーを使用した一人学習の支援
 - ・学校の臨時休校などに備え、eライブラリーが一人で使えるようにする。
- 学校や家庭との連携
 - ・学習内容や学習量について、学校と協議する。
- 地域や家庭への広報
 - ・学校だよりや公民館だよりにより地域未来塾の活動の様子を掲載する。

児童の感想

- ・eライブラリーが一人で使えるようになって、楽しい。
- ・わからないところがわかるようになった。



(小学校パソコン室での学習の様子)

<特色ある取組>

- eライブラリーを使用した自主的な学習

コロナ感染症対策のために学校が休校となった時、家庭で児童が一人で学習に取り組むことができるようeライブラリーの技能習得を支援している。

学校のパソコン室を使用し、指導内容や方法について学校と協議しながら行っている。



(個別指導の様子)

事業を実施して

【成果】

- パソコンを使って、学習に取り組むことができていたので楽しくできた。
- 一人一人が真剣に学習に臨み、時間一杯学習に取り組んでいた。

【課題】

- 継続的な実施のためには、指導者の確保が重要である。今後も、指導者確保のために、努力したい。

うちこ未来塾【内子町】

～地域で子どもの新しい学びを支えよう～

◆活動の目的・理念

- 一人一人が意欲的にプログラミングを体験する取組を支援する環境を提供する。
- 生活につながるプログラミング活動を目指す。

活動場所	自治センター等	対象児童・生徒	小学3年生～6年生	対象学校区名	内子町内小学校
開催日数・曜日・時間等	土曜日	4 日	不定期	9 : 00 ~ 12 : 00	
児童・生徒の平均参加人数	10 人/日	学習支援員	2 人/日	地元企業	
協働活動サポーターのべ人数	人		ボランティアのべ人数	人	
活動内容	プログラミング体験教室		参加者募集	小学校を通じてチラシを配布し、希望者を登録	

取組の概要

<主な取組内容>

- 第1回「スクラッチで花びらキャッチゲームを作ろう」【オンライン授業】
 - ・新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、オンラインでの実施とした。
- 第2回「プログラミングでドローンを飛ばそう」【小田原木市場等】
 - ・グループで協力してドローンを目標地点に着地させるプログラミングを作成。
 - ・林業で実際に使われている農業用のドローン操作を見学させてもらう。
- 第3回「和紙で作った行灯を点灯させよう」【五十崎自治センター】
 - ・プログラミングでLEDを操作し、点灯させる。
 - ・大洲和紙について地元の方に説明してもらう。



(プログラミング体験教室)

児童の感想

- ・前から興味があったので参加しました。やってみてとても楽しかったので、またやってみたいと思いました。
- ・プログラミンでゲームをつくるのが楽しかったです。難しそうだなと思っていたけど、やってみるとすぐにできるようになりました。
- ・ドローンを操作するプログラミングはおもしろかったです。目標地点に着地させるために何回もやり直して、調整しました。

<特色ある取組>

- 地域の特色を生かした教材を使つての活動
 - ・地域の伝統工芸である「大洲和紙」を使った行灯。
 - ・小田原木市場での作業の様子を見学。
 - ・木を運ぶなど地域産業を題材としたゲーム作成。

指導者の声

- ・学校現場でプログラミング教育が必修化され、できるだけ多くの子どもたちに体験する機会を提供したい。
- ・ゲームを作成したり、操作したりするだけではなく、プログラミングが生活の中でどのように使われているのかということを伝えたい。



(大洲和紙を使った行灯を使って)

事業を実施して

【成果】

- いろいろな活動を通して、プログラミングの楽しさや、できた喜びを感じているようである。
- プログラミングだけでなく、地域の産業や特産品について体験し、理解を深めることができた。

【課題】

- 利用人数に応じた指導者数の確保や会場の準備
- 子どもたちの興味・関心を高める教材の開発
- 活動を広めるための学校・家庭との連携

野村学び舎【西予市】

～地域ぐるみで子どもの学びを支えよう～

◆活動の目的・理念

- 一人一人が目標を持ち、意欲的に学力向上をめざす子どもの学びを支援する環境を提供する。
- 地域の方々の協力を得ながら、学力の定着をめざす。
- 一人一人に応じた子どもの学びを支援する。

活動場所	西予市図書館 野村分館	対象児童・生徒	小学3年生～6年生	対象学校区名	野村小学校 惣川小学校 大野ヶ原小学校
開催日数・ 曜日・時間等	土曜日	24 日	毎週土曜日	9 : 30 ~ 11 : 30	
児童・生徒の 平均参加人数	8 人/日	学習支援員	2 人/日	教員OB、学校生活支援員等	
協働活動サポーターのべ人数	48 人	教員OB等、地域の方	ボランティアのべ人数	人	
活動内容	宿題や予習・復習の学習支援、学習習慣の育成、学習相談への対応			参加者募集	小学校を通じてチラシを配布し、希望者を登録(随時受付)

取組の概要

<主な取組内容>

- 宿題にじっくり取り組もう
 - ・落ち着いた環境の中で、集中して学習する。
- 目標をもって学習しよう
 - ・自分で学習時間や内容を決めて学習をする。
- 苦手を克服しよう
 - ・学習のつまづきに気付き、その場で指導者に教えてもらい、分かる楽しさを味わう。
 - ・宿題の分からない所を指導者とともに考えることで、できた喜びや達成感を味わう。
- 家庭学習の進め方を学ぼう
 - ・学習の仕方を身に付け、家庭での学習習慣の育成につなげる。



(活動の様子)

児童の感想

- ・学校に提出する宿題のミスが減った。
- ・学校より質問がしやすい。
- ・勉強が分かるようになった。
- ・分からないところや間違い直しができていい。

保護者の感想

- ・前日から行く準備をして楽しみにしています。学習に対する向上心が見られて本当に助かっています。
- ・分からない勉強を教えてもらっていると楽しそうに話してくれます。
- ・少人数のため質問がしやすく、学校で理解できていないところが分かるようになったようです。

<特色ある取組>

- 地域の先生に教えてもらおう！

指導者の先生は、教職を退かれた方や学校生活支援員を経験されている方で、指導の仕方がとても上手である。個に応じたきめ細かな指導で、一人一人の学びをサポートしている。

指導者の声

- ・はじめは遠慮があったが、学び舎での学習に慣れ、自分から質問する子どもが増えてきた。
- ・ときには、学校生活や好きなことの話をして楽しい交流になっている。
- ・子どもが調べたいことを自主的に図書館内で調べることができる環境がよい。



(個に応じた学習支援)

事業を実施して

【成果】

- 3年目を迎え、継続して参加する児童が増えた。指導者とのよいつながりができている。
- 事務局との指導者間の連絡調整にはSNSを利用したり、家庭への連絡はメール配信システムを利用したりして、スムーズな連絡体制を構築することができた。

【課題】

- 新型コロナウイルス感染症対策
- 利用人数に適した会場の確保
- 指導者の確保
- 指導者全体での共通理解や指導者間での引継ぎ(情報交換)

うわじま土曜塾【宇和島市】

～地域ぐるみで子どもの学びを支えよう～

◆活動の目的・理念

- 勉強の遅れがちな小中学生に対し、まずは自ら学習する習慣を身に付けさせる。
- 基礎学力を身に付けることに重点を置いた、分かるための学習指導を行う。
- 情操の涵養を図り、勉強する意味を学び、将来の夢や目標を持てるよう様々な体験学習を実施する。

活動場所	市内5公民館	対象児童・生徒	小学4年生～6年生 中学1年生～3年生	対象学校区名	市内全小中学校 (小学校28校、中学校6校)
開催日数・ 曜日・時間等	土曜日	40	日	毎週土曜日(小学生)	9 : 00 ~ 12 : 00
				毎週土曜日(中学生)	13 : 00 ~ 16 : 00
児童・生徒の 平均参加人数	1カ所 25 人/日	学習支援員	1カ所 4 人/日	教員OB、塾講師	
協働活動サポーターのべ人数	人			ボランティアのべ人数	人
活動内容	・「学校の教科書」+「スタッフが選定した教材」を活用しての学習支援 ・各種体験活動			参加者募集	各学校を通じてチラシを配布し、希望者を登録 (申込多数の場合は書類選考有り)

取組の概要

<主な取組内容>

- **まずは学習する習慣を身に付けよう**
 - ・家庭での学習が困難な児童生徒や、学習習慣が十分に身に付いていない等の理由により勉強が遅れがちな児童生徒には、自ら学習する習慣を身に付けさせることが第一歩であり、学力向上につなげることを目的に指導している。
 - ・「昨日分からなかったことが、今日から分かるようになる」という勉強の楽しさや喜びを伝え、学習習慣の確立を図る。
- **スタッフが選定した教材とeトレを活用しての学習支援**
 - ・学校の教科書を使うことはもちろん、参加者に適した進度教材をeトレから選定し、活用している。
- **スタッフ研修**
 - ・教室ごとにミーティングを行い、また、リーダー研修会を通して、教室相互の情報交換など、スタッフ間の意識統一に努めている。



(授業風景)

<特色ある取組>

● 体験活動の充実

学習活動のみならず将来の目標を持つきっかけづくりのため、様々な体験学習を実施している。

各企業における出前講座を土曜塾に活用し、様々な職業についての勉強や各企業の取組について学習を行い、勉強する意味を学んだ。

・実施内容
「木工教室(愛媛県職業能力開発協会)」、「卓球大会」、「プラバン作り」
「教科別クイズ大会」 など



(木工教室かんな掛け体験)

木工教室の体験学習に参加した児童・生徒の感想

- ・かんな掛けは「下に押す力」も「引っ張る力」も必要で、加減がとても難しかった。
- ・かんな掛けの時に、木からいろいろな匂いがした。
- ・「木」ってこんな匂いがするんだと思った。

事業を実施して

【成果】

- 安定したスタッフの確保や年間を通じた効率的運営の実施により、参加希望人数が増加した。
- 体験学習を通じ、机上以外から勉強する楽しさを身体で感じ、学ぶことができた。

【課題】

- 地域人材スタッフの拡充と育成に努めたい。
- 個人の学習意欲と基礎学力の向上、勉強習慣の定着をどのように図っていくか。
- 子どもの興味を誘いつつ、いかにやる気を起こさせるか。